



第58期  
**事業報告書**  
IRハンドブック  
平成16年10月1日～平成17年9月30日



# 財務ハイライト

(注) 平成15年度までにつきましては単体としての報告でしたが、平成16年より連結としての報告といたします。



## 売上高

(単位:百万円)



## 経常利益

(単位:百万円)



## 当期純利益

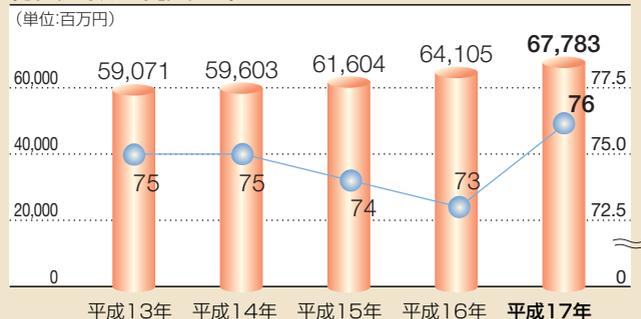
(単位:百万円)



## 総資産額／純資産率

■ 総資産額 ● 純資産率

(単位:%)



## Contents

社長メッセージ	3	連結財務諸表	10
営業の概況	4	株式の状況	13
特集	6	会社概要	14
TOPICS	8	ネットワーク	15

## 社長メッセージ



代表取締役社長 吉川 俊雄

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
当社の第58期(平成16年10月1日から平成17年9月30日まで)の  
営業概況を事業報告書としてお届けするにあたり、日頃のご支援に対し  
厚くお礼を申し上げます。

当期におけるわが国経済は、好調な企業利益を背景とした設備投資の  
増加に加え、雇用環境の改善に伴って個人消費にも回復の兆しが見られ  
るなど、景気は踊り場局面を脱しつつありました。しかしながら、原油価  
格の高騰や年金問題など、将来に対する不安は払拭されておらず、先行  
き不透明な状態は続いております。

食品関連業界においては、米国産牛肉のBSEをはじめとする畜産品の  
安全性への問題が解消せず、国内における水産品の消費低迷も続いて  
いることから、厳しい事業環境が続いております。

こうしたなか、当社では社員の自主性を尊重し、現場の声を積極的に経  
営に反映させるとともに、社員が長期的視点に立って仕事に取り組むよ  
う意識改革を進めてまいりました。冷蔵倉庫事業においては、高付加価  
値なサービスを提供するための設備投資を積極的に行ってまいりました。  
一方、食品販売事業では消費者ニーズの変化に対応し、畜産品に注力い  
たしました。また、BSEや鳥インフルエンザ問題発生時には代替ニーズ  
への迅速な対応に努めました。その結果当期は過去最高の売上高を達  
成することができました。当期末の配当は、経営成績を勘案し1株につ  
き50銭増配の8円とさせていただきます。中間配当金とあわせ1株  
あたりの年間配当金は、1円増配の16円となりました。今後も、当社は  
顧客重視を基本に収益向上と企業価値向上を目指してまいります。  
株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りたくお  
願い申し上げます。

## 営業の概況

当期において、当社グループは中期経営計画の最終年にあたり、目標達成に向けて顧客の求める商品やサービスの提供、新たな販路の開拓など積極的な営業活動に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

この結果、厳しい事業環境にありながら、期初の目標を上回る過去最高の売上高を達成することができました。当連結会計年度の売上高は96,510百万円（前期比19.8%増）、営業利益は3,187百万円（前期比5.6%増）、経常利益は3,397百万円（前期比5.9%増）、当期純利益は1,845百万円（前期比10.6%増）となりました。

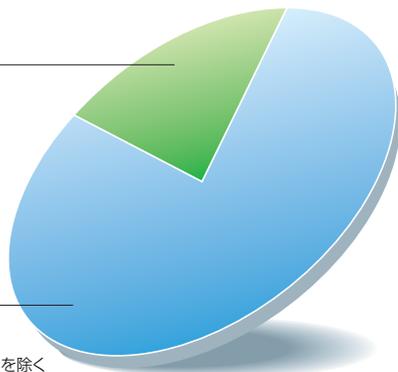
平成18年9月期の通期（連結）の業績見通しにつきましては、売上高97,060百万円、経常利益3,520百万円、当期純利益1,940百万円、1株当たりの当期純利益は38円84銭を見込んでおります。

### セグメント別売上高構成比 平成17年通期 （単位：百万円）

冷蔵倉庫事業  
17,637  
(18.3%)

国内 17,246  
タイ 391

食品販売事業  
78,836  
(81.7%)



(注) その他事業収入35百万円を除く

## 冷蔵倉庫事業

平成17年8月には伊勢原物流センター（24,339トン）が、9月には都城物流センター（6,043トン）が稼働いたしました。これにより当期末の国内冷蔵設備保管収容能力は、607千トンとなりました。

国内入出庫取扱数量は、新規顧客開拓などにより、前期を4.1%上回る2,145千トンとなりました。また、海外連結子会社のタイヨコレイ株式会社も、外部環境及び営業努力の結果、業績は堅調に推移しております。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の売上高は17,637百万円（前期比7.2%増）、営業利益は3,642百万円（前期比20.3%増）となりました。

## 食品販売事業

全般に販売環境が厳しいなか、新規顧客の獲得及び取扱品目と数量の拡大を図り、販売力の強化に努めました。その結果、水産品では海老・サバなど主力商材の取り扱いが増加いたしました。また、長期化している米国産牛肉の輸入禁止により、豚肉に対する代替需要が引き続き旺盛であることから、豚肉を中心に畜産品の売上も大きく上伸いたしました。

以上の結果、食品販売事業の売上高は78,836百万円（前期比23.1%増）となりましたが、畜産品を中心とした仕入れ価格上昇の影響から営業利益は999百万円（前期比18.6%減）となりました。



## 国内売上高

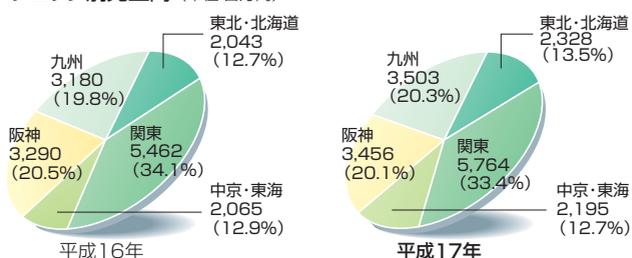
(単位:百万円)



## ブロック別の状況

全国的に入庫取扱数量が順調に伸び、在庫も増加いたしました。特に首都圏ではその傾向が顕著となっております。九州地区の売上高も回復し、全体では前期に比べ7.5%増の17,246百万円の売上高となりました。

ブロック別売上高 (単位:百万円)



## 国内売上高

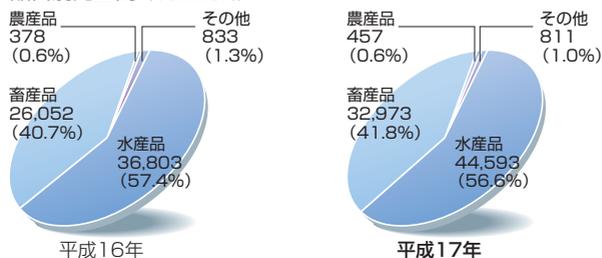
(単位:百万円)



## 品目別の状況

全般に取扱数量、売上金額とも増加いたしました。特に豚肉の売上が大幅に増加したことから、畜産品売上金額が前期に比べ26.6%増の32,973百万円となり、水産品の売上金額も21.2%増の44,593百万円となりました。

品目別売上高 (単位:百万円)



# 特集 さらなる成長のために ～「中期経営計画」の総括と「新中期経営計画」

当社は、平成14年10月から3か年にわたって「中期経営計画」を推進してまいりました。

この最終年度である当期において、売上高と当期利益は当初計画を上回り、

経常利益についても修正数値目標を達成することができました。

この成果を踏まえて、当社ではさらなる成長のために、平成17年10月からの3か年を対象とする「新中期経営計画」へと移行いたします。この戦略とポイントを紹介いたします。

## 中期経営計画(平成14年10月～17年9月)

中期経営計画では「新しい『美味しさ』『便利さ』『楽しさ』を支える食流ネットワークカンパニー」を経営ビジョンとして、下記の4つの経営目標に取り組んできました。計画期中は、社員の意識改革が進んだほか、畜産品への注力と市場の変化に対する迅速

な対応を実現できました。また、十勝グリーン・オーナーズ・クラブ「大地」を開始するなど、今後一層の成長が期待できる農産事業の収益強化に向け先鞭をつけることができました。

### 経営目標

1

食生活の安定・安全・  
安心に貢献

2

変革を支え、人を育てる  
仕組みの再構築

3

コア事業の強化・拡大と  
第3の柱の育成

4

成長と効率化を同時に  
追求した価値創造

### 実施した施策とその達成状況

「食」の安全・安心を保证する  
体制づくりを推進。品質保証  
力の強化にも努めました。

- トレーサビリティ、賞味期限管理システムの構築
- コンプライアンス・マニュアルの制定
- 京浜地区4冷蔵倉庫におけるISO9001認証の取得

社員の自主性を尊重し、現場  
で自らが考えて行動する体質  
づくりに取り組みました。

- 資格制度に基づくレンジ給導入による適正な賃金支払いの仕組みを確立
- 業務改革プロジェクトへの若手社員の参画
- 階層別教育プログラムの再構築

顧客ニーズの変化を見据え、  
将来に備えた設備投資を実施  
しました。農産事業の伸長に  
向けた施策にも着手しました。

- 4温度帯対応の物流型倉庫、伊勢原物流センターの稼働によって、加須、鶴ヶ島の各物流センターを結び「首都圏広域ネットワーク」を構築
- 地域密着建設型冷蔵倉庫である都城物流センターの開設

事業の最適化のための拠点  
統廃合やホストコンピュータ  
の能力増強など効率化に努め  
ました。

- 57期、58期に1円ずつの増配を実施
- 北九州地区の3冷蔵倉庫を統廃合、老朽化していた福岡工場を閉鎖
- 女川工場の事業縮小、十勝と福岡の2営業所の新設
- ホストコンピュータの能力増強によって業務処理の高速化を推進



## 新中期経営計画 (平成17年10月～20年9月)

当社は、一次生産品を扱っている事業構造上、外部環境変化によるさまざまな影響に対する懸念は免れませんが、冷蔵倉庫事業では収益力のさらなる強化、食品販売事業では水産・畜産・農産

の生鮮3品の事業をバランスよく展開することで、さらなる「安定的な成長」を実現し、これまで以上に株主利益の確保と向上を目指します。

### 「新中期経営計画」3つの方針

中長期的視点の目標を掲げ  
積極的にチャレンジする  
人・体制づくり

企画機能強化による  
事業領域拡充

事業運営の  
仕組みづくりによる生産性向上

### 目標とする経営指標

新中期経営計画では、これまで以上に株主への利益還元を重視すべく、売上高や経常利益、当期利益だけでなく、ROEや配当性向といった指標において目標達成を目指していきます。

上記の方針のもと、3年後に売上高1,100億円の実現を目標とします。また、売上拡大と併せ、利益率の向上も目指します。

冷蔵倉庫事業は設備産業であり、投資回収には長期間を要するため、安定的な資金調達が必要不可欠です。資本効率の維持・向上に努め、3年後にはROE4%台を安定的に維持できる企業体質を目指します。

株主の皆さまに対する利益還元を重要施策の一つと認識しており、今後も積極的な配当を行います。配当性向は日本企業の平均である20% (2005年日経予測) に対して40%以上の配当維持を目指します。

売上高/経常利益/当期利益  
(単位:百万円)

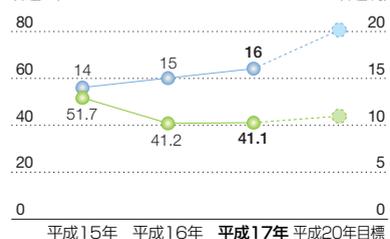


(注) 上記の各数値は当社単体の数値です。

ROE ●資本利益率(ROE)



配当性向/配当金 ●配当性向 ●配当金/株



## TOPICS 1 伊勢原物流センターが稼働開始

4温度帯対応型としては国内最大級  
首都圏冷蔵倉庫とのシナジーによって「首都圏広域ネットワーク」を構成  
地域需要への対応力を一層強化

伊勢原物流センター（神奈川県伊勢原市）が、平成17年8月に竣工稼働しました。

当センターは、当社初の四温度帯（冷凍・冷蔵・定温・常温）に対応できる物流型冷蔵倉庫であり、地上4階建、冷蔵収容能力24,339トンという大型設備です。冷媒にはオゾン層を破壊しないアンモニアを使用し、ソーラー発電システムと合わせて環境にやさしい設備でもあります。



### 伊勢原物流センターの概要

敷地	5,290坪	収容能力	
延べ床面積	26,736㎡	F級倉庫	18,652t
構造規模	鉄筋コンクリート造	C級倉庫	5,687t
	一部鉄骨造	定温倉庫	949㎡
	地上4階建	常温倉庫	4,005㎡

当センターの稼働により首都圏を取り囲む圏央道と東北・関越・東名の各高速道路を結ぶ拠点整備が完成し、物流の“迅速化と低コスト化”が期待できます。

今後は、加須、鶴ヶ島両物流センターと京浜地区湾岸部の5冷蔵倉庫との連携によって「首都圏広域物流ネットワーク」を構築し、物流の効率化・高速化の実現ならびに地方への物流基地として顧客ニーズに答えていきます。



圏央道（開通予定）を経由して、東北、関越、東名の3高速道路とのスムーズな連携を図ることができるようになり、これによって、混雑する首都圏を経由することなく地方への物流を効率化・高速化することができます。また、首都圏内の冷蔵倉庫とも連携し、首都圏を取り囲む「首都圏広域物流ネットワーク」が完成することになります。



## TOPICS 2 都城物流センター(宮崎県)が6カ月の工期で竣工

### 九州縦貫自動車道に隣接した好立地 農畜産物をメインターゲット

都城物流センターは南九州の農畜産物の主要生産地である都城市にあり、九州縦貫自動車道宮崎線の都城ICから3分という好立地にあります。平成17年9月13日に竣工、稼働を開始しました。

設備面においては、庫内の冷気が自然対流する「天井ヘアピンコイル方式」を採用しており、荷物の乾燥や色あせなどの品質劣化

を抑制します。また、環境に配慮し、伊勢原物流センターと同様、冷媒にはオゾン層を破壊しないアンモニアを使用しています。

平成18年1月には第2期工事を予定し、保管能力をさらに増強して地元の農畜産物の物流・保管ニーズに対し一層の確にお応えしていきます。



#### 都城物流センターの概要

敷地	2,866坪
延べ床面積	3,492㎡
構造規模	鉄骨造 平屋建
収容能力	
F級倉庫	6,043t
凍結	36t/日

## TOPICS 3 十勝グリーン・オーナーズ・クラブ 「大地」を創設

### 北海道芽室町の農事組合法人「十勝21世紀」と提携し、十勝産野菜の直送事業を開始

十勝営業所は、平成17年7月から農事組合法人「十勝21世紀」と提携し、十勝グリーン・オーナーズ・クラブ「大地」をスタートしました。十勝グリーン・オーナーズ・クラブ「大地」は、ジャガイモやキャベツなど13種類の十勝産野菜を年6回、会員の皆さまへお届けするシステムです。

会員の皆さまからは「新鮮でおいしい野菜が楽しめる」とご好評をいただいております。来年からは品数を一層豊富にするなどさらにお楽しみいただけるよう取り組んでいく予定です。



(写真)十勝毎日新聞社提供

種まきから収穫までの様子がホームページ(アドレス下記)でご覧いただけます。

十勝グリーン・オーナーズ・クラブ「大地」公式ホームページ  
<http://www.e-daichi.net>

※お申込みやお問い合わせは、横浜冷凍株式会社十勝営業所内十勝グリーン・オーナーズ・クラブ「大地」係まで。

TEL.0155-62-7790

FAX.0155-62-7792

E-メール:info@e-daichi.net

## TOPICS 4

### 「第1回フォークリフト 安全運転 技能コンテスト」を開催

安全運転の技術向上と意識高揚を図る目的で第1回フォークリフト安全運転技能コンテストが平成17年10月1



日に当社子安工場(横浜市)で開催され、予選を勝ち抜いた全国のヨコレイフォークリフトオペレーターが日頃の技能を競い合いました。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別 第58期 平成17年 9月30日現在	第57期 平成16年 9月30日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>24,683</b>	<b>24,054</b>
現金及び預金	4,135	5,897
受取手形及び売掛金	13,921	13,232
有価証券	—	199
たな卸資産	5,660	4,078
繰延税金資産	353	350
その他	691	342
貸倒引当金	△ 78	△ 48
<b>固定資産</b>	<b>43,099</b>	<b>40,051</b>
<b>① 有形固定資産</b>	<b>36,535</b>	<b>34,623</b>
建物及び構築物	18,574	16,928
機械装置及び運搬具	3,367	3,017
土地	14,201	14,011
建設仮勘定	35	338
その他	357	327
<b>無形固定資産</b>	<b>1,596</b>	<b>1,582</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>4,968</b>	<b>3,844</b>
投資有価証券	4,093	3,059
長期貸付金	172	82
その他	820	798
貸倒引当金	△ 118	△ 96
<b>資産合計</b>	<b>67,783</b>	<b>64,105</b>

(単位:百万円)

科目	期別 第58期 平成17年 9月30日現在	第57期 平成16年 9月30日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>12,498</b>	<b>10,780</b>
支払手形及び買掛金	8,195	8,241
短期借入金	53	53
未払法人税等	871	774
未払費用	1,057	757
賞与引当金	600	508
その他	1,719	445
<b>固定負債</b>	<b>3,533</b>	<b>6,277</b>
<b>② 転換社債</b>	<b>1,809</b>	<b>4,825</b>
長期借入金	—	53
繰延税金負債	596	209
退職給付引当金	797	867
役員退職慰労引当金	277	268
その他	52	54
<b>負債合計</b>	<b>16,032</b>	<b>17,058</b>
<b>少数株主持分</b>		
<b>少数株主持分</b>	<b>222</b>	<b>207</b>
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	<b>10,163</b>	<b>8,655</b>
資本剰余金	10,206	8,698
利益剰余金	30,512	29,408
その他有価証券評価差額金	1,128	505
為替換算調整勘定	△ 119	△ 120
自己株式	△ 363	△ 307
<b>資本合計</b>	<b>51,528</b>	<b>46,840</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>67,783</b>	<b>64,105</b>



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第58期	第57期
		平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで
売上高		96,510	80,560
売上原価		88,402	73,067
売上総利益		8,107	7,492
販売費及び一般管理費		4,919	4,472
営業利益		3,187	3,019
営業外収益		234	206
営業外費用		24	19
経常利益		3,397	3,207
特別利益		1	104
特別損失		39	260
税金等調整前当期純利益		3,359	3,051
法人税、住民税及び事業税		1,490	1,430
法人税等調整額		△ 31	△ 120
少数株主利益		54	71
当期純利益		1,845	1,668

## 連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第58期	第57期
		平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高		8,698	8,611
資本剰余金増加高		1,507	87
資本剰余金期末残高		10,206	8,698
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高		29,408	28,408
利益剰余金増加高		1,845	1,668
利益剰余金減少高		741	668
利益剰余金期末残高		30,512	29,408

(注)

### [第58期 連結貸借対照表関係]

- 1.有形固定資産の減価償却累計額…………… 39,301 百万円  
 2.担保に供している有形固定資産…………… 578 百万円  
 3.保証債務 HARBOURSIDE SERVICES PTY.LTD.…… 975 千豪ドル  
 (83 百万円)

### [第58期 連結損益計算書関係]

- 有形固定資産の減価償却実施額…………… 2,168 百万円

## POINT①

### 有形固定資産

- 伊勢原物流センター新設工事  
 …………… 3,174百万円  
 都城物流センター新設工事  
 …………… 677百万円

## POINT②

### 転換社債

- 第3回無担保転換社債の転換による減少…………… △ 3,016百万円

# 連結財務諸表



## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	第58期	第57期
		平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで	平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		<b>1,716</b>	1,938
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ <b>2,621</b>	△ 3,548
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ <b>858</b>	△ 957
現金及び現金同等物に係る換算差額		<b>0</b>	△ 4
現金及び現金同等物の減少額		△ <b>1,762</b>	△ 2,571
現金及び現金同等物の期首残高		<b>5,888</b>	8,460
現金及び現金同等物の期末残高		<b>4,125</b>	5,888

## 利益処分

(単位:百万円)

科目	期別	第58期
		株主総会承認日 平成17年12月21日
当期末処分利益		<b>1,861</b>
任意積立金取崩高		<b>81</b>
合計		<b>1,942</b>
利益処分額		
利益配当金 1株につき8円		<b>392</b>
役員賞与金		<b>35</b>
特別償却準備金		<b>20</b>
別途積立金		<b>1,000</b>
合計		<b>1,448</b>
次期繰越利益		<b>494</b>

(注) 平成17年6月20日に376百万円(1株につき8円)の中間配当を実施いたしました。

# 株式の状況 (平成17年9月30日現在)



会社が発行する株式の総数……………160,000,000株  
 発行済株式の総数……………49,558,380株  
 株主数……………9,811名

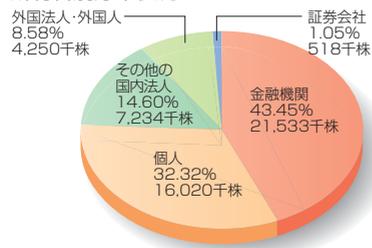
## 大株主名 (上位10名)

	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	5,483	11.06
第一生命保険相互会社	3,107	6.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,435	4.91
株式会社横浜銀行	2,176	4.39
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,845	3.72
農林中央金庫	1,473	2.97
株式会社八丁幸	1,411	2.85
横浜振興株式会社	892	1.80
横浜冷凍従業員持株会	856	1.73
横浜丸魚株式会社	808	1.63

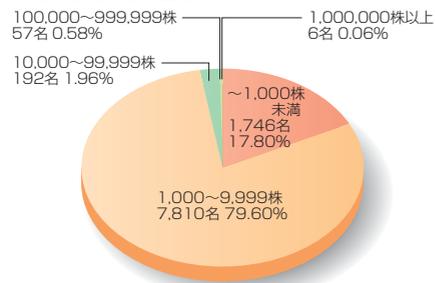
(注) 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社……………5,483千株  
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社……………2,435千株

## 所有者別分布状況



## 所有株式数別株主分布状況



## 株主数(単元株以上所有)の推移



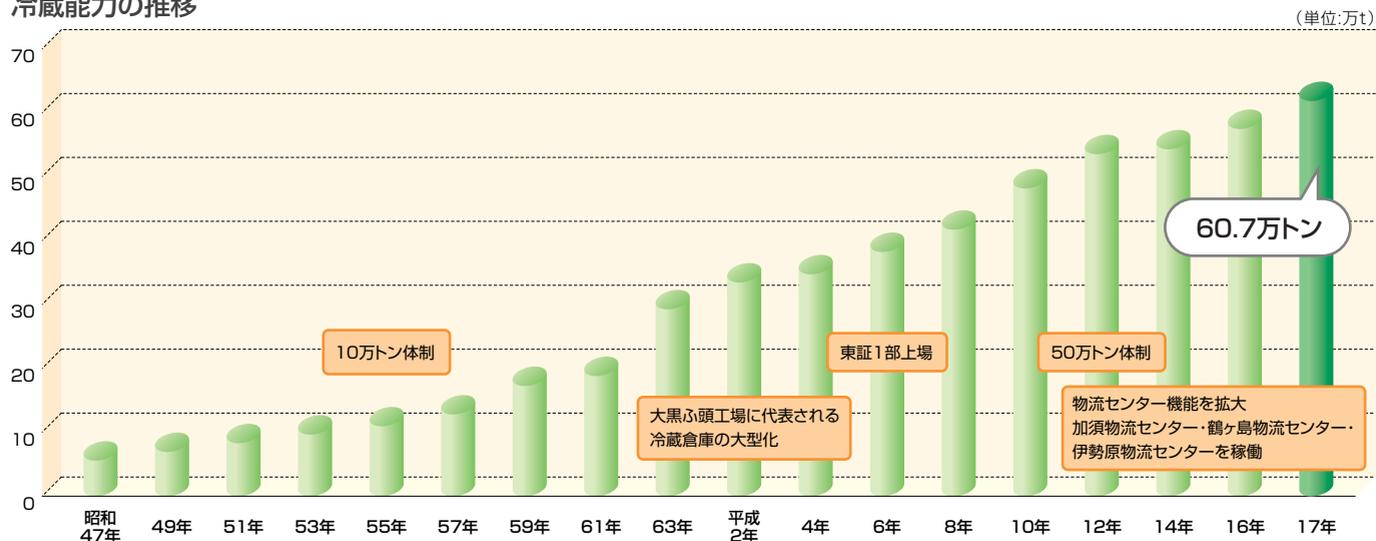
# 会社概要



社 名 横浜冷凍株式会社  
 本 社 横浜市西区花咲町六丁目145番地 横浜花咲ビル7階  
 TEL (045) 326-1010(代表)  
 FAX (045) 326-1145  
 設 立 昭和23年5月13日  
 資 本 金 10,163,438,857円(平成17年9月30日現在)  
 従 業 員 数 806名(平成17年9月30日現在)  
 業 務 内 容 1. 冷蔵倉庫業ならびに普通倉庫業  
 2. 水産品の加工、販売ならびに輸出入  
 3. 農畜産物の加工、販売ならびに輸出入  
 4. 不動産賃貸業  
 5. 貨物運送取扱事業ならびに貨物自動車運送事業  
 6. 食堂および喫茶店の経営ならびに飲食物の販売  
 7. その他前各号に付帯関連する一切の事業  
 (定款における事業目的)

役員および執行役員 代表取締役社長 吉 川 俊 雄  
 専 務 取 締 役 吉 橋 伊知男  
 常 務 取 締 役 小 林 健 次  
 常 務 取 締 役 八 田 保  
 取 締 役 水 野 隆 明  
 取 締 役 藤 田 裕 澄  
 取 締 役 飯 島 敏 正  
 取 締 役 西 山 敏 彦  
 取 締 役 安 富 明 文  
 監 査 役 (常 勤) 佐 々 木 美 稲  
 監 査 役 (常 勤) 東 根 憲 一  
 監 査 役 久 米 信 介  
 監 査 役 大 田 正  
 執 行 役 員 三 井 次 信  
 執 行 役 員 井 上 祐 司  
 執 行 役 員 岩 淵 文 雄  
 執 行 役 員 須 藤 正 己  
 (平成17年12月21日現在)

## 冷蔵能力の推移



# ネットワーク (平成17年9月30日現在)



## 国内

### 食品販売事業 (18ヶ所)

横浜営業所  
東京営業所  
貿易部  
銚子営業所  
茨城営業所  
沼津営業所

名古屋営業所  
大阪営業所

福岡営業所  
唐津営業所  
長崎営業所  
佐世保営業所  
鹿児島営業所

仙台営業所  
気仙沼営業所  
八戸営業所  
札幌営業所  
十勝営業所

● 本社  
● 冷蔵工場  
● 物流センター  
● 営業所および加工工場

### 冷蔵倉庫事業 (36ヶ所)

横浜工場  
大黒ふ頭工場  
子安工場  
伊勢原物流センター  
東京工場  
東京第二工場  
加須物流センター  
鶴ヶ島物流センター  
沼津工場  
大井川工場

小牧工場  
名古屋工場  
中川工場  
大阪工場  
大阪西淀工場  
大阪舞洲工場  
神戸工場  
六甲物流センター

福岡物流センター  
箱崎工場  
鳥栖工場  
唐津工場  
長崎工場  
佐世保工場  
都城物流センター  
鹿児島工場  
枕崎工場  
山川工場  
川辺工場  
志布志工場

仙台工場  
気仙沼工場  
女川工場  
八戸工場  
石狩物流センター  
十勝物流センター

### 非連結子会社

(株)福槌

## 海外

### 連結子会社

タイヨコレイ(株) ----- タイ

### 非連結子会社

ハーバーサイドサービス(株) .. オーストラリア



# 株主メモ



決算期	9月30日
定時株主総会開催期	12月
同総会議決権行使株主確定日	9月30日
利益配当金支払株主確定日	9月30日
中間配当金支払株主確定日	3月31日
その他の基準日	上記のほか必要がある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定
公告掲載新聞	日本経済新聞
1単元の株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所(第1部)
名義書換	
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)

## お知らせ

- 1.日本経済新聞に掲載する貸借対照表及び損益計算書の開示は当社ホームページに掲載しております。  
<http://www.yokorei.co.jp/kessan.html>
- 2.平成15年4月1日施行の商法改正により「株券失効制度」がスタートし、株券を喪失された場合の手続が従来の公示催告・除権判決に基づく再発行手続より簡便となりました。詳細は名義書換代理人にご相談ください。

株式の相続手続依頼書を  
請求したいのですが？

配当金の振込指定先を  
変更したいのですが？

住所を変更したのですが？

単元未満株式買取請求に必要な  
用紙が欲しいのですが？

このような時は、  
名義書換代理人のフリーダイヤル

**☎0120-707-696**で

24時間承っております。  
ご利用ください。



## ホームページのご案内

当社の最新情報をご覧いただけます。

トピックス 営業内容 採用情報 個人情報保護について  
会社案内 お問い合わせ 貨物情報照会 決算公告 投資家の皆様へ



横浜冷凍株式会社  
横浜市西区花咲町六丁目145番地  
横浜花咲ビル7階